

非食事者を含む遠隔共食を可能にするインタフェースエージェント の開発

Development of the interface agent for remote co-dining with people who are not having a meal

学籍番号：201021739

氏名：大塚 雄一郎

Yuichiro OTSUKA

食事は、私たちの生活において不可欠な活動である。特に、誰かと共に食事をする共食は、栄養摂取といった生理的意義のみでなく、「同じ釜の飯を食う」という言葉にも見られるように、人との関係を維持し円滑にするといった社会的意義も大きい。

しかし、近年では個々の生活リズムの多様化や家族と離れて生活するなどの時間的、距離的な制約によって一人で食事することを余儀なくされる「孤食」という問題が存在している。このような状況において ICT を用いた解決として、テレビ会議システムを応用した遠隔共食支援システムなどが研究されてきているが、その多くは遠隔地間における両者に食事があることを前提としている。けれども実際には、遠隔地間の一方が食事をするとき、他方は同様に食事をする時間帯ではないが、食事をしている相手と会話だけを行うことができる状況もあり得る。このような遠隔地間の一方のみが食事をしている状況は、遠隔共食支援においてこれまで考慮されていない。

本研究では、このような状況において、食事をしていない非食事者の代わりに食事をする非食事者の分身エージェントにより疑似的な共食を実現し、コミュニケーションの質や食事の満足度の向上を図ることを目的としたインタフェースエージェントの開発を行う。提案するエージェントは、食事者と既知の関係にある非食事者の分身であるため、非食事者と同等の外見をもつ。また、エージェントのより自然な振る舞いを実現するため、実際の共食場面の映像分析に基づきエージェントの食事行動を実装した。

提案システムの評価実験は、提案エージェントを用いる条件、食事しないエージェントを用いる条件及び相手の実映像を用いる条件の3条件のもとに実施し、質問紙調査とインタビュー調査により各条件間における会話の質、食事の満足度について評価を得た。

研究指導教員：井上 智雄

副研究指導教員：鈴木 誠一郎